

**尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査
結果報告書(概要版)**

**平成 26 年 9 月
尾 鷲 市**

【目次】

1. 調査の概要	1
2. 回答者の状況について	1
3. アンケート結果の概要について	3
4. 考察	8

※グラフ及び表の見方

回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を大きく超える場合があります。

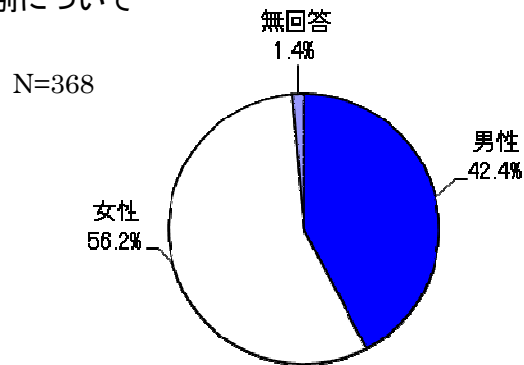
グラフ及び表の「N数 (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

1. 調査の概要

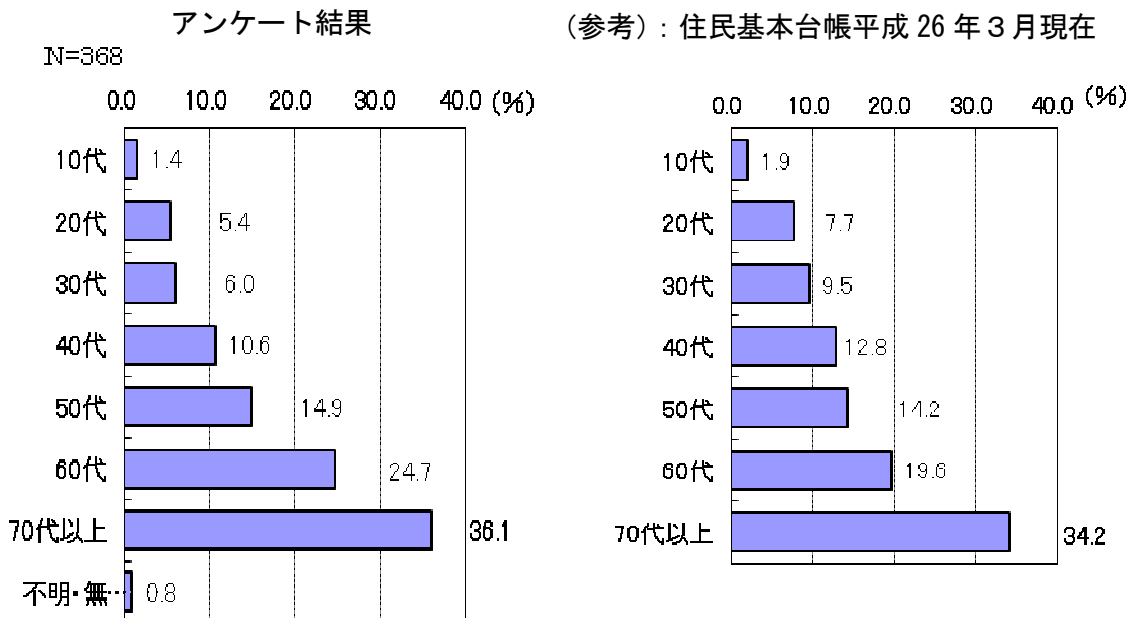
調査区域 : 尾鷲市全域
調査対象 : 18 歳以上の市民から 1,000 人を無作為抽出
調査時期 : 平成 26 年 3 月
配布数 : 1,000 票
回収数 : 368 票
回収率 : 36.8%

2. 回答者の状況について

1) 性別について

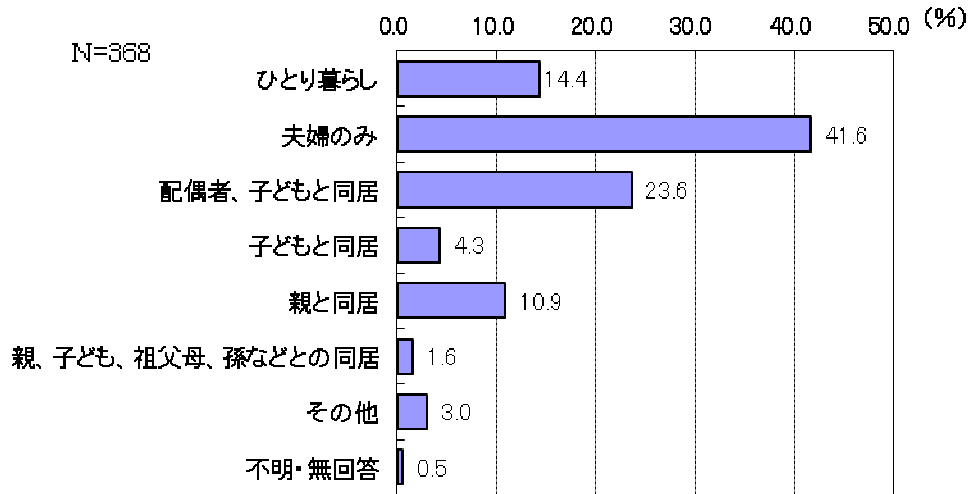


2) 年齢構成について

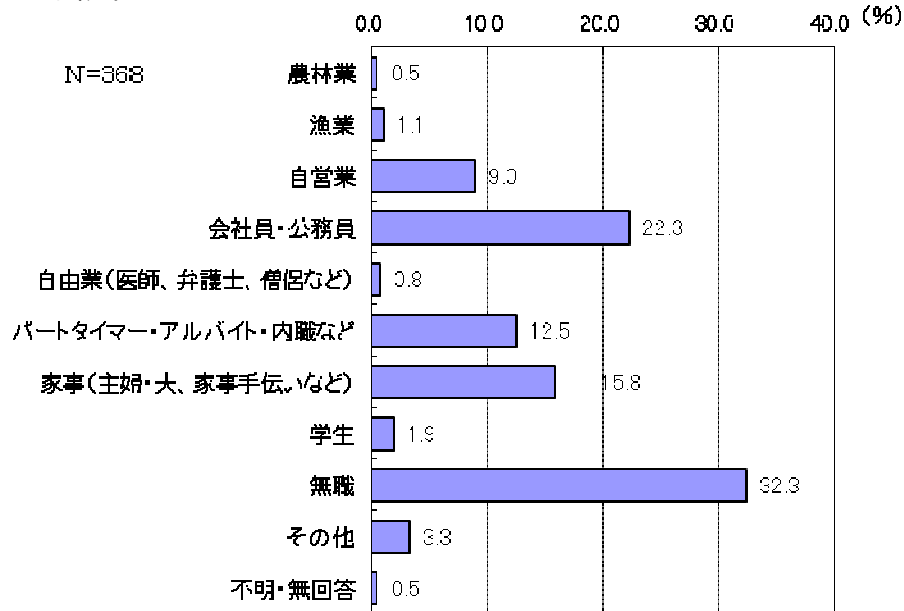


※調査対象である 18 歳以上の人口の年齢構成比。10 代は 18、19 歳のみ。

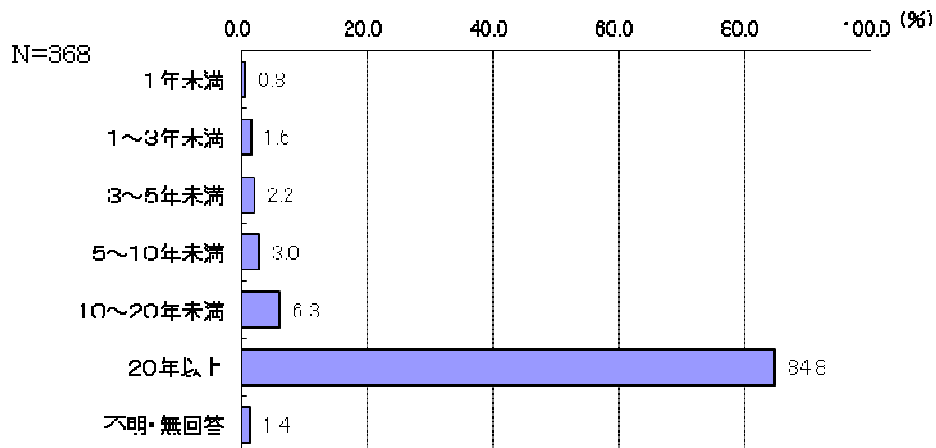
3) 世帯状況について



4) 主な職業について

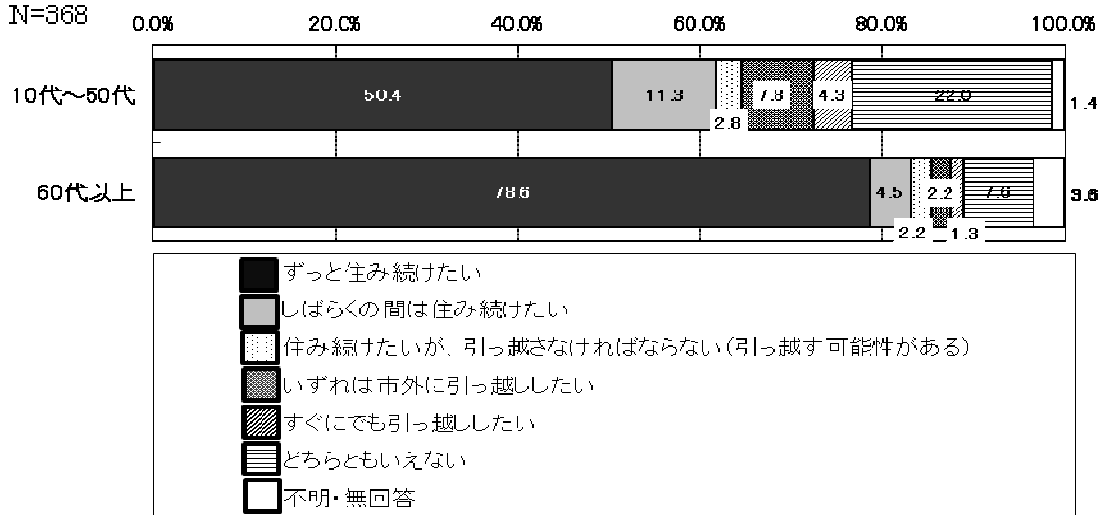


5) 居住年数について

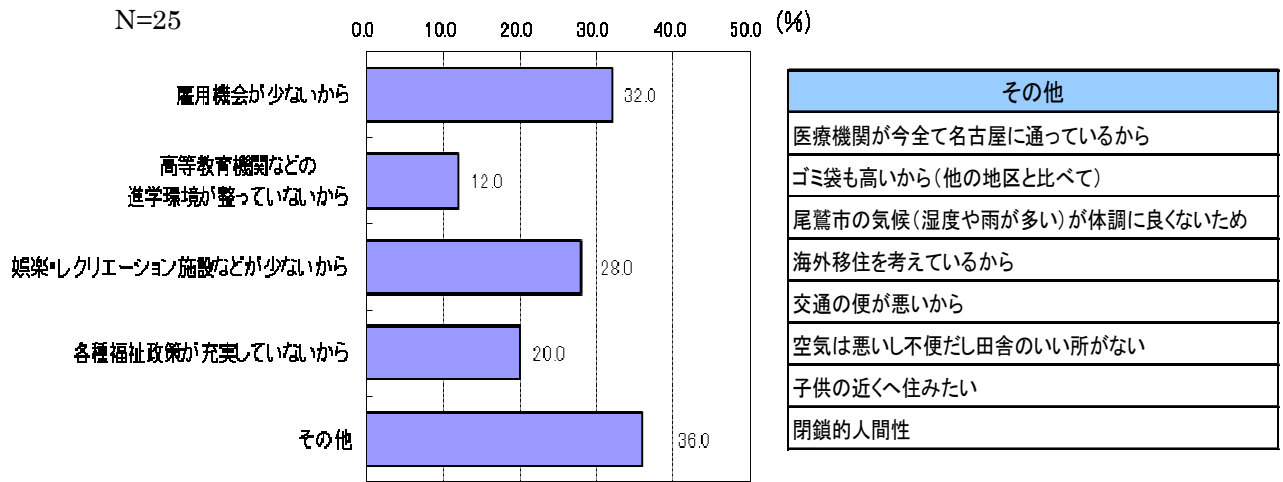


3. アンケート結果の概要について

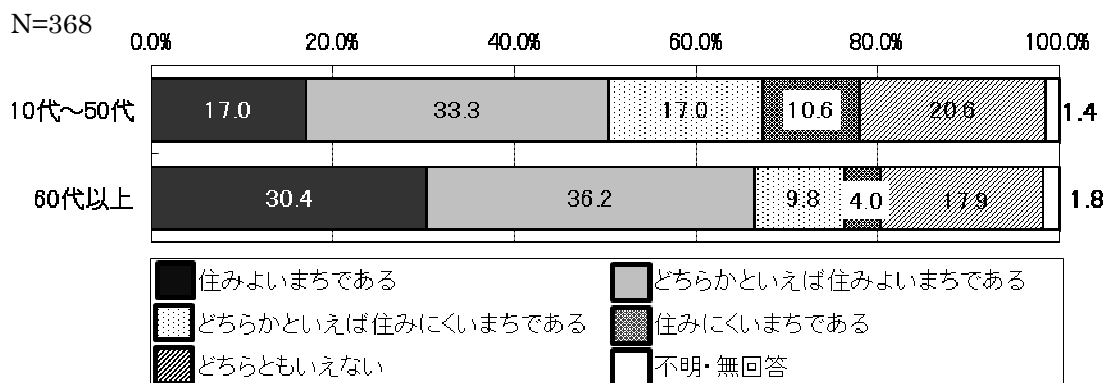
1) 年代別『定住意向』について



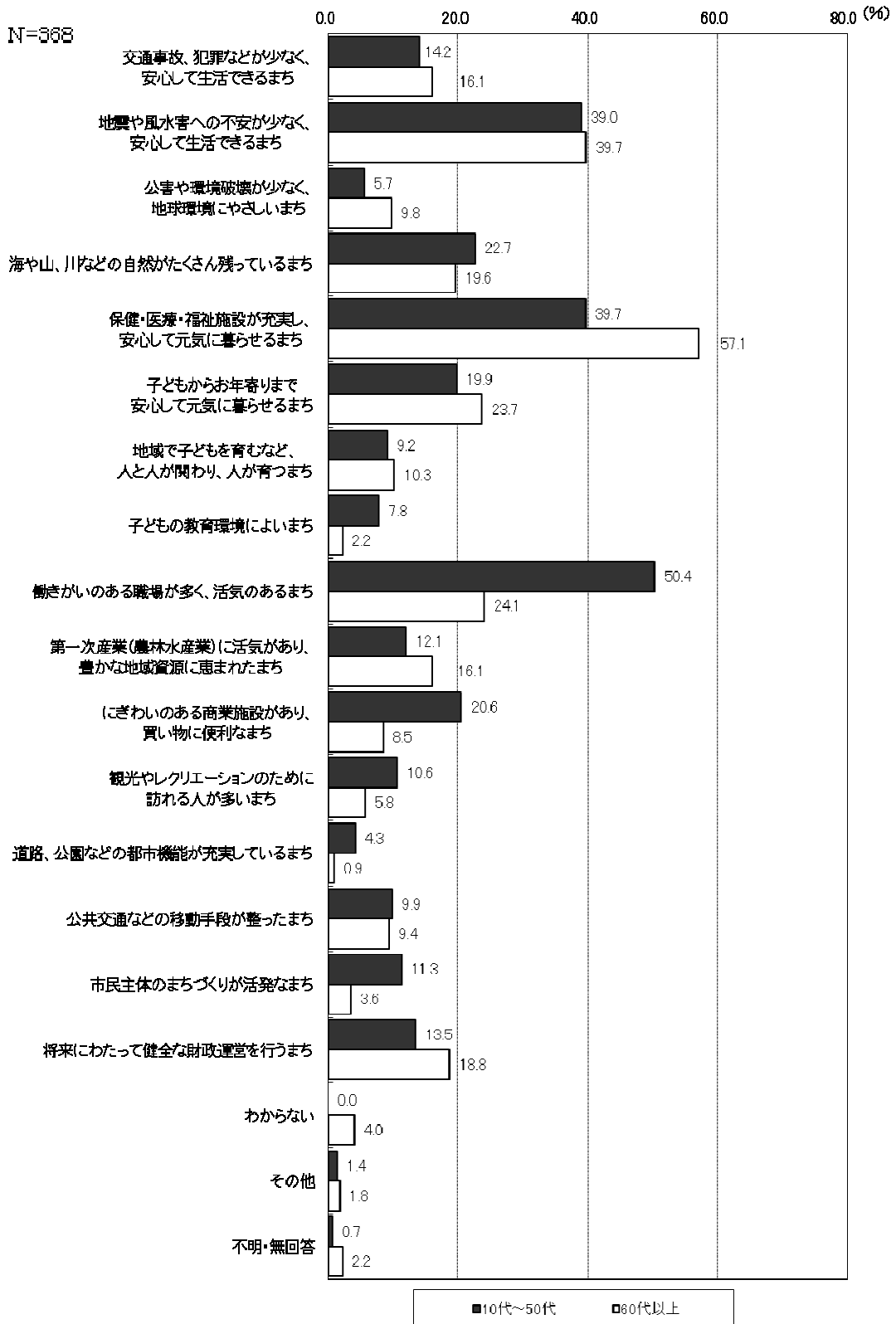
○ 「いずれかは市外に引っ越したい」または「すぐにも引っ越したい」という方の理由について



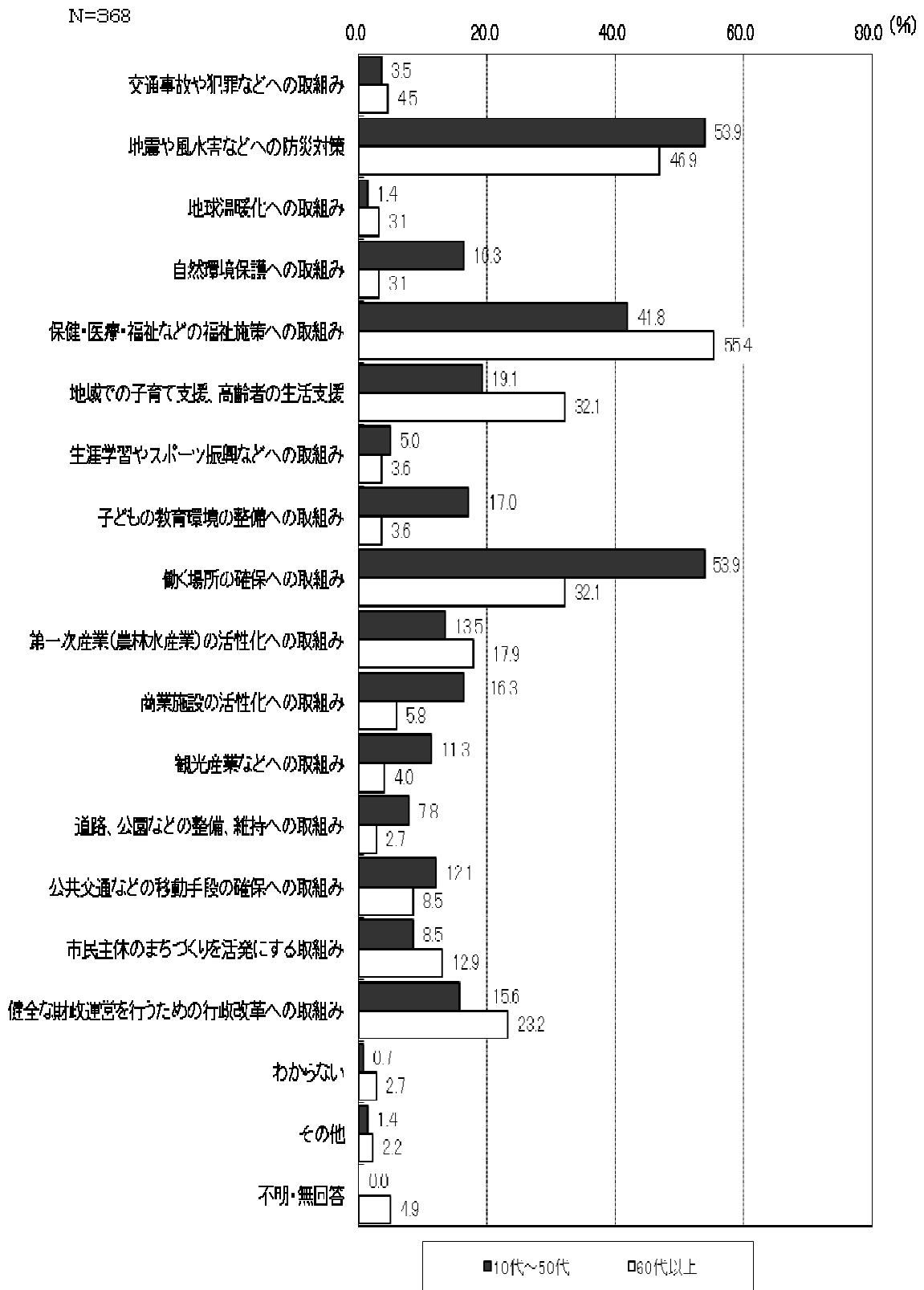
2) 年代別『住みよいまち』について



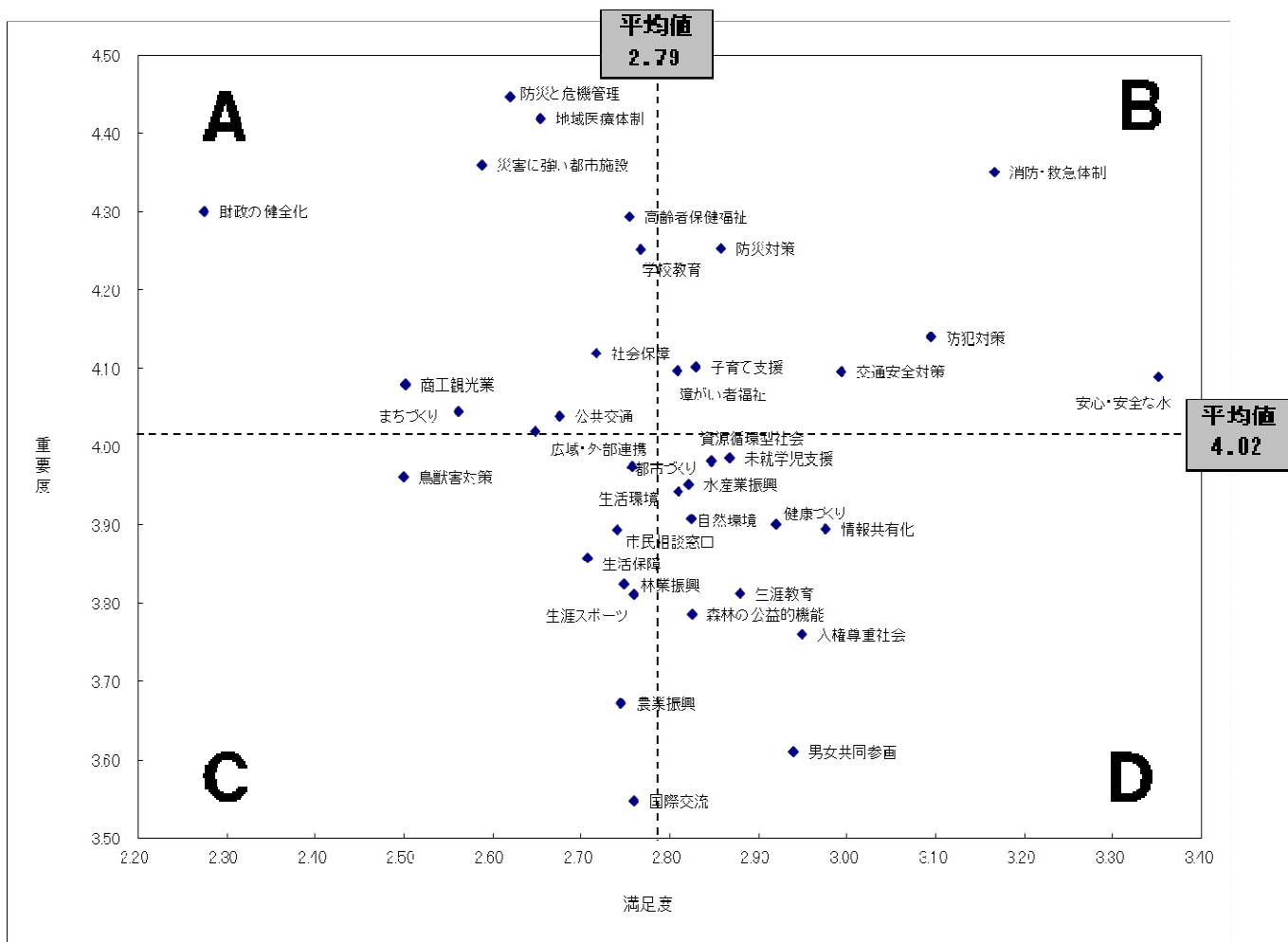
3) 年代別『尾鷲市が将来どのようなイメージのまちになって欲しいと思いますか』
について



4) 年代別『市が積極的に進めるべき取組み』について

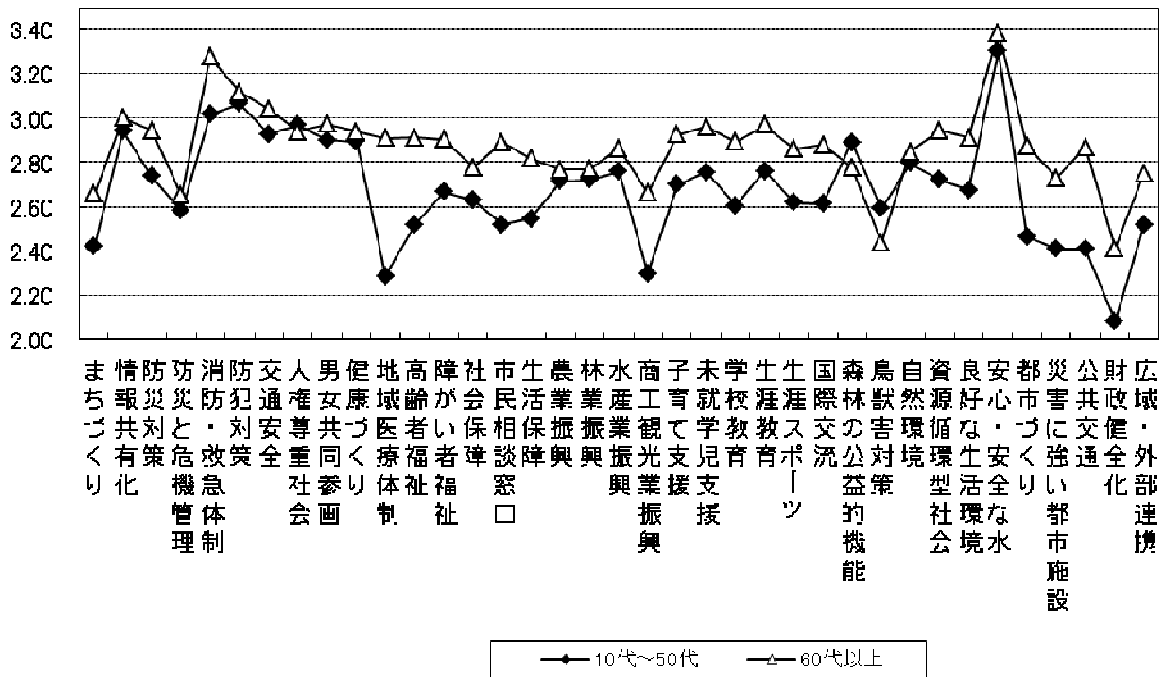


5) 市が実施している取り組みやサービスについて、現在の「満足度」と今後の「重要度」についての散布図

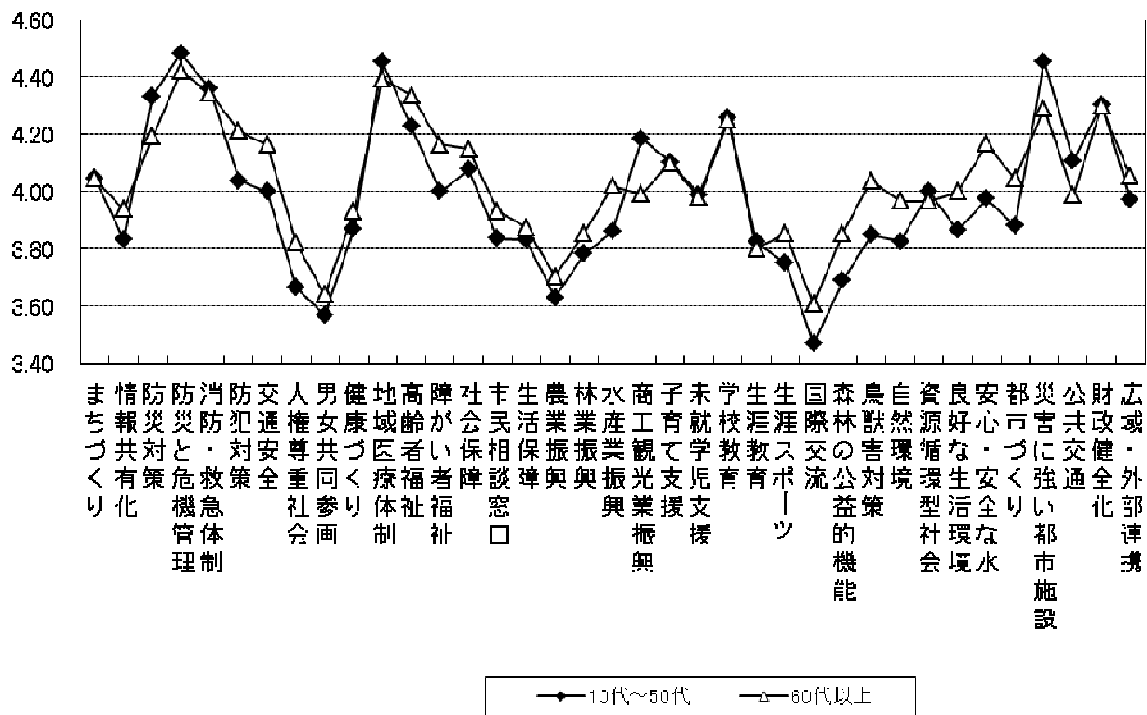


		領域	説明
重要度 ↓	A	満足度 低 重要度 高	重要度が高いにもかかわらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
		満足度 高 重要度 高	
	C	満足度 低 重要度 低	満足度は低いものの重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
	D	満足度 高 重要度 低	満足度が高く、重要度が低いため、今後、場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目
		満足度→	

○満足度の年代別



○重要度の年代別



4. 考察

回答者の属性をみると、実際の居住者の割合より、50歳代、60歳代、70歳代以上の回答割合が高くなっている。また、高齢者の占める割合が高くなっていることから、職業は、「無職」の割合が多くなっている。しかし、年齢構成は、ほぼ実際の居住者のバランスと回答者のバランスが一致していることから、現時点での市民の意識をある程度反映できているといえる。

1)年代別『定住意向』において、尾鷲市に『ずっと住みたい』が、全体で67.1%、年代別に見ると、60歳未満では50.4%、60歳以上では78.6%となっている。また、3)年代別『尾鷲市が将来どのようなイメージのまちになって欲しいと思いますか』において、年代別に見ると、60歳未満では、『働きがいのある職場が多く、活気のあるまち』が50.4%で第1位、『保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち』が39.7%で第2位となっているが、60歳以上では、『保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち』が57.1%で第1位、『地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち』が39.7%で第2位、『働きがいのある職場が多く、活気のあるまち』は24.1%で第3位となっている。

また、60歳未満の人にとっては、魅力ある雇用の確保が難しい状況で、将来に対する不安があるなどの理由により、『ずっと住みたい』の割合が5割程度になっているのではないかと推測される。

4)年代別『市が積極的に進めるべき取り組み』において、市民の多くが『地震や風水害などへの防災対策』や『保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み』の推進に期待しているものの、60歳未満では『働く場所の確保への取り組み』が第1位に、60歳以上では、『地域での子育て支援、高齢者の生活支援』が第3位になっている。

これからのまちづくりについては、5)『市民みんなで目標達成のために取り組むこと』において、『推進すべき』と『ある程度推進すべき』を含めると7割以上が推進すべきとの意見である。推進するために何が重要かという問いに対しては、『職員の意識改革など市役所の体制整備』、『市政情報の積極的な提供』をという意見が多く、市民との共創を図るうえで、市に対して現状のままの行政運営ではなく、共創の前提としての行政と市民間の情報共有や市役所の体制整備といった改革を求める意見であったと推測される。

満足度・重要度の散布図については、特に、重要度の点数化については、「重要」＝5点、「どちらかといえば重要」＝4点、「普通」＝3点、「どちらかといえば重要でない」＝2点、「重要でない」＝1点とし、その平均値は4.02とどの項目の重要度も高いことに留意が必要である。そのうえで、あえて解析すると、満足度が低く、重要度が高いA領域が優先度の高い分野、満足度が高く、重要度が低いD領域が優先度の低

い分野となる。つまり、『財政健全化』、『防災と危機管理』、『災害に強い都市施設』などは優先度が高く、『人権尊重社会』、『男女共同参画』などは優先度が低い分野と考えられる。また、B領域に属する『消防・救急体制』、『安心・安全な水』、『防犯対策』などは満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要があり、C領域に属する『鳥獣害対策』、『市民相談窓口』、『生活保障』などは満足度・重要度とも低いため、優先順位を勘案しながら、満足度の向上に努める必要がある。